|  |  |
| --- | --- |
| 和文表題　[ゴシック 18pt] | English Title　[Arial 13pt] |
| ■藝大一郎　東京藝術大学　[ゴシック 9pt]□多摩二郎　多摩美術大学大学院、美術研究科■筑波三郎　筑波大学 | Geidai IchiroTama JiroTsukuba Saburo | : Tokyo University of the Arts [Arial 10pt]: Graduate School of Art & Design,  Tama Art University: University of Tsukuba |



↑　図のキャプションは[ゴシック 8pt]

要旨　[ゴシック 9pt]

□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□

[明朝 9pt]

Summary　[Arial 9pt]

about 150 words 　[Arial 9pt]

 You can copy and use the form.

１．はじめに　[ゴシック 9pt]

　作品集は「作品論文」と「作品ムービー」で構成する（作品論文のみでも可）。和文もしくは英文による原稿とする。採録後が決定した後に「作品論文」「作品ムービー」はその内容を訂正することはできない。

　「作品論文」は、表題、著者名、所属、要旨、図、表、注などを含め、刷り上がりは６頁以上、12 頁迄とする。６頁以降は８頁、10頁、12頁と２頁毎にページを追加できる。奇数ページは認めない。

図２　図の説明文

　「作品ムービー」は、作品論文と同一の表題、著者名、所属を示すタイトル頁を含め、その尺は３分以内とする。

　表題は和文ならびに英文とする。特に、主題目は簡潔に、一見して研究論文の内容がよくわかるように工夫して記す。また、「・・・・に関する研究(III)」などの研究の連続性を示すものは副題目にする。英文表題においても、「Study on ・・・」などとすることは避け具体的に表現する。作品名などの固有名詞を表題に加える場合は、固有名詞を先頭に置きその後ろに「：」をつける。固有名詞は和文、英文のどちらでもよい。

　著者名は、作品のデザインプロセスに直接的に参加した者を記載する。共著者は非会員でも可とするが、会員／非会員を明記し、会員は「■」、非会員は「口」の記号で示す。尚、謝辞の中で挙げるのが適当と思われる者を共著者とすることは避ける。また、社名や組織名のみで個人名のないものは受け付けない。[明朝 9pt]

２．作品論文の表題・本文等の割付

２−１．原稿フォーマット　[ゴシック 9pt]

　学会webサイトの投稿案内にある「原稿フォーマット」をダウンロードして利用し、[表題、著者名、所属、 和文要旨、英文Summary]の割付を行う。

２−２．要旨

　要旨は、作品を発表する上での主張が的確に理解できるよう、平易な文で簡潔に記述する。英文Summary はネイティブチェック等の校閲を経たものとする。

２−３．区分

　原稿は、原則として区分を設けて記述する。例えば、[はじめに、作品の内容とその価値、デザインのプロセスとその価値、主張と考察、おわりに、謝辞、注]など。

２−４．章節の区分

　原稿には、「大見出し・章」、「中見出し・節」、「小見出し・項」などを設け、それらを明瞭に区分する。章が変わる時には、１行あけて章に入る。なお、節、項が変わっても１行あけない。章は１．、２．、３．・・・・、節は１−１．、 １−２．、 １−３．、・・・・の記号を用い、本文は改行する。項は（１）（２）（３）・・・の記号を用い、改行せずに１字あけて本文を続ける。さらに細分を要するときは、著者の分類に委ねる。

２−５．カタカナ表記

　一般に用いられる外国語の術語はカタカナ表記とする(例えば、industrial design →インダストリアルデザイン)。 ただし、カタカナ表記することによって字義が不明確になるおそれのあるものはこの限りではない。なお、欧字のまま記す必要がある場合には、例えば、Morris, idea のように、半角文字にする。

２−６．数字表記

　数字は原則として算用数字を用い、例えば 表1、図2、30cm、7g、1kg、1,258、5 時間、80 円のように記す。数字は、１桁の場合には全角文字、２桁以上の場合には半角文字を用いる。年、月、日は、原則として算用数字を用いる。また、年は西暦による表記を原則とし、元号を併記する場合には、例えば 2017（平成 29）年のように記す。

２−7．句読点や括弧の表記

句読点は「。」「、」、他に、中点・ナカグロ「・」、コロン「：」を用い、それぞれ全角にする。英文表記では、ピリオド「.」、コンマ「,」を用い、それぞれ半角にする。 また、/「 」『 』（ ）{ }〈 〉《》[ ]【 】なども全角にする。

２−８. 注および参考文献

1）注および参考文献は、通し番号をつけ、1)、2)のリストで表記する。また、本文中においては当該事項の後に、[注 1]、[注 5～7]のように示す。文章の末尾に記す場合は句点の前に記す。

2）注および参考文献は、原則として次のように記す。雑誌の場合は、著者：表題、雑誌名、巻、号、頁、年の順に記す。各文献には本文の注記順で番号を付して（文頭は全角数字と肩括弧）列記すること。例えば、

１）山田太郎：シンボル・デザインの日本的特性、デザイン学研究、Vol.45, No.3, pp.57-60, 1981

２）Bohannan, P.：New Project for IndustrialDesign, Current Design, Vol.5, No.3, 1966

著書の場合は、著者：書名、発行所、頁、発行年の順にする。例えば、

１）日本富士雄：図説デザインの基礎、日本書房、pp.55-2, 1971

２）Leach, E.：Forms and Function, National Press, p.7, 1976

翻訳本の場合には、著者、翻訳者：書名、発行所、頁、発行年の順に記す。例えば、

１）ベルグ, A.、田中一郎訳：サインとシンボル、世界デザイン出版、p.23, 1957

２−９．作品論文の図や表の割付

1）提示する作品の主張を代表する写真や図は、原稿1 枚目の上段、[タイトル、著者名、所属]の下に充分な大きさで割り付ける。

2）図や表には、図 1、図 2̶1、表 1、表 2̶2 のように通し番号（全角）をつけキャプションを付記する。英文の場合には、Fig.1、Fig.2-1、Table1、Table2-2 のように、通し番号（半角）をつける。尚、図表のキャプションは、図の場合には図の下に、表の場合には表の上に記す。3）特に必要でない限り、同一データを図と表とで重複させない。

4）写真や図の画像解像度は 300dpi 程度にすること。